

# 令和6年度自己評価表

(愛媛県立内子高等学校・本校)

学校番号 (33)

教育方針	<p>1 知力・気力・体力の充実と共生の心を育む教育を推進する。</p> <p>2 自ら学び、自ら考え、自ら表現できる生徒を育成する。</p> <p>3 社会に貢献できる生徒を育成する。</p> <p>重点努力目標</p> <p>生徒一人一人の確かな学力の向上と心身の鍛錬に取り組み、人格の陶冶を図る。</p> <p>一自己肯定感を高め、自ら考え行動できる生徒の育成一</p>	重点目標	<p>1 育てたい生徒像</p> <p>(1) <u>自尊心を持ち、たくましく困難に立ち向かう生徒を育てる。</u></p> <p>(2) <u>確かな学力を身に付け、自らの生き方を探究する生徒を育てる。</u></p> <p>(3) <u>向上心を持ち、目標に向かって粘り強く努力する生徒を育てる。</u></p> <p>(4) <u>自他の生命を尊重する心を持ち、人権意識の高揚を目指す生徒を育てる。</u></p> <p>(5) <u>社会生活に必要な規律とマナーを身に付け、積極的なコミュニケーションが図れる生徒を育てる。</u></p> <p>2 作りたい学校像</p> <p>(1) <u>安全・安心な校内の体制と教育環境の整備をし、信頼される学校運営を行う。</u></p> <p>(2) <u>教職員の資質・能力の向上と、学校組織の活性化を図る。</u></p> <p>(3) <u>地域との結び付きを大切にし、地域から愛される学校を作る。</u></p>
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	円滑な組織運営	・報告・連絡・相談を徹底し、教職員が団結して業務に取り組むとともに、健康で楽しく業務を行えるよう更なる働き方改革を推進する。	B	・本校の魅力を発信するために「魅力化発信室」を配置し、学校HPや学校案内等を活用し、学校の魅力化に努めた。 ・「総合的な探究の時間」の中で、校外で学習する機会を増やし、地域の課題発見、課題解決に向けた学習を積極的に行行った。	・中学生とその保護者向けに、本校の魅力がさらに発信できるようSNS等も活用していきたい。 ・「総合的な探究の時間」の中で生徒が主体的、協働的な学びにつながるよう研究を進めていきたい。
	事務の適切な執行	・連絡を密にし、適正な事務処理を実践し、安全、安心な教育環境の整備、資源・経費の節約に努める。	B	・朝礼や校内GWを活用し、適正な連絡調整ができた。 ・物価の高騰による影響はあったが、限られた財源の節約に努め予算内に収めることができた。	・日頃から教職員全体で安全への意識を高め、更なる環境整備に努める。 ・節電や節水等、資源の有効活用に積極的に取り組んでいく。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
P T A 活 動	開かれた学校づくりと P T A 活動の充実	・年に2回、P T A 会報を発行し、P T A 活動と共に学校生活や教員紹介をし、学校と保護者とのつながりを強めるとともに、 <u>地域への理解を広める。</u>	C	・行事予定に関しては、月末に余裕を持って配布することができない月もあった。 ・ホームページにあらかじめ年間行事案を掲載することで、部活動や行事等の計画を立てやすくすることができた	・今後とも保護者との関係を深め、開かれた学校づくりを意識した行事予定の作成・配布を心掛けたい。
学 習 指 導	家庭学習の充実	・自主学習1日3時間以上を目指す。 A:180分以上 B:180分未満 C:120分未満 D:60分未満 E:0分	C	・考査発表中または考査中を除き、家庭学習を3時間以上確保できている生徒は非常に少ない。	・家庭学習の重要性について各教科の授業、ホームルーム活動、学年集会など様々な場面で指導していきたい。
	教科指導の充実	・考察や討論など生徒がより主体的・協働的な活動ができる授業改善を目指し、学習意欲を向上させる。	B	・電子黒板の活用（グラフや動画の提示等）によって、学習意欲を持たせる工夫が行われ、主体的・協働的で深い学びにつながった。	・学習に主体的に取り組む姿勢が最も大切で、その必要性を感じさせるとともに協働的な活動ができる授業展開を目指していきたい。
生 徒 指 導	規範意識の高揚	・問題行動の防止・早期発見に努め、特別指導0を目指す。 A:0件 B:1~2件 C:3~4件 D:5~6件 E:7件以上	C	・残念ながら、問題行動が3件あった。担任を中心にきめ細やかな指導を行いながら、全校生徒に注意喚起を行った。	・生徒の様子や、生徒や地域からの情報、SNSによる投稿など、全教職員があらゆる情報に敏感に対応して、問題行動の早期発見に努めたい。
		・楽しい学校生活が送れるように、いじめ0を目指す。 A:0件 B:1~2件 C:3~4件 D:5~6件 E:7件以上	A	・いじめに関する件数は0ではあるが、いじめにつながりそうな、「いじり」や「からかい」などの事例もある。SNSの使い方次第では、今後いつ起こってもおかしくない状況である。	・生徒会を中心に、各行事が生徒主体の運営により、楽しく活動できるように工夫し、学校が楽しいと思えるような雰囲気づくりに努める。
	基本的生活習慣の確立	・各学年1か年皆勤者60%以上を目指す。 A:60%以上 B:50~59% C:40~49% D:30~39% E:30%未満	E	・1年生35%、2年生29%、3年生26%であった。	・コロナ以来、欠席することに関してのハードルが低くなった。皆勤に拘る時代が終わっているのかもしれない。基本的生活習慣の大切さについて、生徒に向けて集会や行事の時間を活用して指導し、規則正しい一日の過ごし方を身に付けさせたい。
	生徒会活動の活性化	・生徒会を中心とする学校行事の企画・運営の活性化を図る。	A	・生徒会が中心となって各行事を運営し、楽しく活動ができ成功をおさめた。	・今後は本校分校連携にも力を入れ、地域との関わりに目を向けていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	交通安全指導の充実	・自転車・原付バイクの交通マナー向上のための講習会を開催し、自転車・原付バイクの交通事故・違反0を目指す。 A:0件 B:1~2件 C:3~4件 D:5~6件 E:7件以上	C	・自転車の事故が1件、原付の事故が2件あった。不注意な事故もあったが、注意していても被害にあうこともあるので、より慎重な運転を心掛けるように注意喚起を行った。	・なぜ事故が起こったのか原因を探り、臨時の集会や講習会などで注意し、事故がないように努める。今後も交通委員会を中心に交通安全意識の高揚に努めさせる。
		・登下校の自転車用ヘルメット着用率100%を目指す。 A:100% B:90~99% C:80~89% D:70~79% E:70%未満	A	・登校時のヘルメット着用については、着用率は100%であるが、プライベートな場面での着用は不明である。	・時間に余裕を持って登校させ、自ら率先してヘルメットを着用することができるよう、安全意識の高揚を図り、交通マナーを向上させる活動をしていきたい。
	部活動の充実	・部活動と勉強との両立を図り、主体的に考え、活動する生徒を育成する。 ・県総体出場60名、県高文祭参加40名を目指す。 [運動部] A:60名以上 B:50~59名 C:40~49名 D:30~39名 E:30名未満 [文化部] A:40名以上 B:30~39名 C:20~29名 D:10~19名 E:10名未満	A	・県総体出場102名、高文祭参加48名であった。郷土芸能部やライフル射撃部、陸上競技部が全国大会に出場を果たし、男子ソフトテニス部も四国大会に出場した。	・今後も魅Can部を中心に、文武両道を目指しながら、各部が活動内容を工夫し、活気のある部活動となるよう努めたい。
ボランティア活動	ボランティア活動の充実	・奉仕活動やボランティア活動に自主的に参加し、積極的に取り組む姿勢を育成する。	B	・校内外での全校生徒によるクリーン運動が悪天候のため中止となった。笹祭りや、地域の行事に部活動単位で参加することができた。	・天候に左右されるが、さらに校内外の美化に努め、部活動単位や個人・委員会単位で積極的に地域の催しに参加させる。この活動をSNSなどを有効に使い、上手に情報を発信させる。
※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。					

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	・第一志望校への合格率100%を目指す。 A:100%      B:90~99% C:70~89%    D:60~69% E:60%未満	B	・愛媛大学をはじめ松山大学等の第一志望校に合格者を出すことができた。短期大学、専門学校についてもほぼ希望どおりの進路実現ができた。	・第一志望校合格率100%を目指し、早い段階から進学への意識を向上させ、入試制度に合わせた指導の充実を図っていきたい。
	就職指導の充実	・就職内定率100%を目指す。 A:100%      B:90~99% C:70~89%    D:60~69% E:60%未満	B	・民間企業希望者については、ほぼ第一希望企業に内定をいただいたが、進学から進路変更した者への指導が継続中である。 ・公務員希望者は、対策講座に参加するなどして合格することができた。	・低学年より就職に関する意識と知識を確立させる。より具体的に各自の適性を知ることにより、職種を理解を深めさせる。 ・公務員希望者についても、2年生から公務員試験への取組を促す。
	キャリア教育の充実	・キャリアデザインの確立と自分らしい生き方の実現に向けて必要な能力や態度を育成する。	A	・進路実現に向けて多種多様なキャリアデザイン講座を開設し、生徒一人一人が自己の適性や能力に応じた将来の自分を自らイメージできる内容となった。	・講座数をさらに増やし、より体験的かつ専門的な内容となるよう工夫する。
人権・同和教育	いじめ対策	・生徒から相談できる教員75%以上を目指す。 A:75%以上    B:60~74% C:50~59%    D:40~49% E:40%未満	A	・校内いじめアンケート調査を各学期に実施することで、いじめ発生の抑止力になっている。事例に対して、担任や学年主任が迅速に対応できている。	・アンケート結果だけでなく、生徒の心身の変化に十分に気を配り、学年団を中心に組織だった迅速な対応をしていきたい。 ・全教職員で情報を共有して、できる限り、公平・公正な指導を心掛けたい。
	教職員研修と人権・同和教育活動の充実	・校外の人権・同和教育活動や研修会参加率80%以上を目指す。 A:80%以上    B:60~79% C:50~59%    D:40~49% E:40%未満	B	・研修会に参加した教員・保護者の全員が感想を提出し、今後の本校の取組に生かす研修となった。	・積極的な参加を促すとともに、研修会の内容を保護者に向けた「人権かわら版」で紹介して、周知していきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
研修	校外研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科内研修や研究授業、相互授業参観週間(年2回)等を実施し、幅広い見識を身に付ける皆さんのきっかけとすることで、個々の資質と専門以外の領域を踏まえた指導力の向上を図る。</li> </ul> [相互授業参観] A:100% B:95~99% C:80~94% D:75~79% E:75%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互授業参観週間の実施により、他教科の授業から新たな発想を得て指導に生かす機会が生まれ、若手教員も先輩教員からの的確なアドバイスを受けて授業改善に努める場となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用や他教科の特徴を学ぶ機会を通じて、教科横断型授業の可能性を探りながら、授業形態の改革を進め、教員の指導力維持・向上に向けた継続的な取り組みを行う。</li> </ul>
図書館教育	図書館活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間図書貸出数一人あたり5冊以上を目指す。</li> </ul> A:5.0冊以上 B:3.6~4.9冊 C:2.0~3.5冊 D:1.5~1.9冊 E:1.5冊未満	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間図書貸出数は、一人当たり6.6冊であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の5.1冊に比べて1.5冊増加した要因は、今年度から開始した毎日の朝読書にあると考えられる。朝読書を上手に活用しながら図書室に足を運ばせる工夫をしていきたい。</li> </ul>
情報管理	個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セキュリティ対策の研修会を実施し、個人情報の漏えいを防止する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初と第1学期末に研修会を実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回は必ずセキュリティ研修を実施できるようにする。</li> </ul>
	適切な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開校日はホームページを毎日更新する。</li> </ul> A:毎日 B:週4日 C:週3日 D:週2日 E:週1日	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の担当者と教頭とダブルチェックの体制ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護を念頭に、必ずダブルチェックを実施するようにする。</li> </ul>
保健管理	健康管理の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康観察や学校生活を通して生徒の健康状態を確認し、<u>安心・安全な学校環境を整える。</u></li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2モニター値を確認しながら換気を呼びかけるなどして、感染症対策を実践させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭等の学校行事での熱中症対策について、更に強化する必要があるため、より効果的な対策の導入を検討する。</li> </ul>
教育相談	教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会等を通して、生徒理解に努め、スクールライフアドバイザーの協力も得ながら組織で早急に対応する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の生徒に対して、スクールライフアドバイザーの協力を得ることで支援を円滑に進めることにつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談対象生徒だけでなく、保健室利用生徒の理解を深めることにおいても専門家の活用・連携を検討する。</li> </ul>

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学年	〈1学年〉 基本的生活習慣の確立・維持	・相互に協力して生徒理解に努め、心身ともに健やかでかつ自律した生徒を育成する。	B	・教員間で生徒情報の共有を心掛け、一人一人の個性を理解しながら、健やかで自律した生徒の育成を実践できた。	・引き続き教員間で連携しながら、生徒が健やかで自律した生活を主体的に維持していくことができるよう、育成に努めたい。
	〈2学年〉 進路目標の明確化	・ <u>進路目標の決定に向けて、自身の長所を活かしながら、学校生活に主体的かつ協働的に取り組む生徒を育成する。</u>	B	・将来自分のなりたい姿やどのように活躍したいかについて想像させ、自分の強みを活かしながら、学校生活に主体的で協働的に取り組む生徒の育成を実践できた。	・大きな目標を達成するには、中目標や小目標を立てて計画的に取り組むことが大切であることを理解させ、習慣化させることで、進路目標を確実に達成できる生徒の育成に努めたい。
	〈3学年〉 進路指導の充実	・自らの進路実現に向けて主体的に取り組む生徒を育成する。社会の一員として、自覚と責任そして心の成長を促す。	B	・進路課と連携し、適切な進路指導を実践できた。 ・一人一人の生徒にHR担任や教科担任が寄り添いながら、生徒が進路実現に向けて主体的に取り組むことができた。	・2月からも、各生徒が新しい環境にスムーズに移行できるように、最後まで指導・助言を続けていきたい。 ・卒業後もできる限りアフターフォローをして、生徒の今後の活躍を促したい。
業務改善	適切な勤務時間	・毎月の80時間超時間外勤務職員数0を目指す。 A:0名 B:1~2名 C:3~5名 D:6~8名 E:9名以上	C	・4月~12月において、80時間超時間外勤務をした職員数は1か月平均3.9名(昨年度4.2名)であった。同期間で、80時間超時間外勤務に1か月でも該当した職員は12名(昨年度11名)、3か月以上の職員は4名(昨年度7名)であった。(全職員数37名) ・年度当初の繁忙期は、必然的に時間外勤務が増える傾向がある。	・継続的に時間外勤務時間が多い職員には、管理職から声を掛け、健康状態や業務状況などの把握に努めたい。 ・定期的に学校医(健康管理医)と情報共有し、必要に応じて受診を勧めるなどしていきたい。 ・閑散期には、休暇等の取得により勤務時間の均衡を図りたい。
	職場環境の整備	・教職員の疲労や心理的な負担の軽減を図るとともに、円滑なコミュニケーションの促進によって風通しのよい職場づくりを行う。	A	・休暇を取得しやすい雰囲気職場内に浸透しており、職員が不調の際も、周囲でしっかりフォローする体制が整っている。 ・教職員間のコミュニケーションも活発で、各所で教育活動の改善につながる情報交換がなされている。	・教職員間の良好な関係や雰囲気の維持に努め、誰もが気軽に教え合いや助け合いができる職場づくりを推進していきたい。 ・個人からグループ、更には学校全体へと、情報交換を密にし、有用な提案は即実現できるようにしていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。